

神  
寶  
解

(非賣品)

014287-000-5

特19-138

神宝解

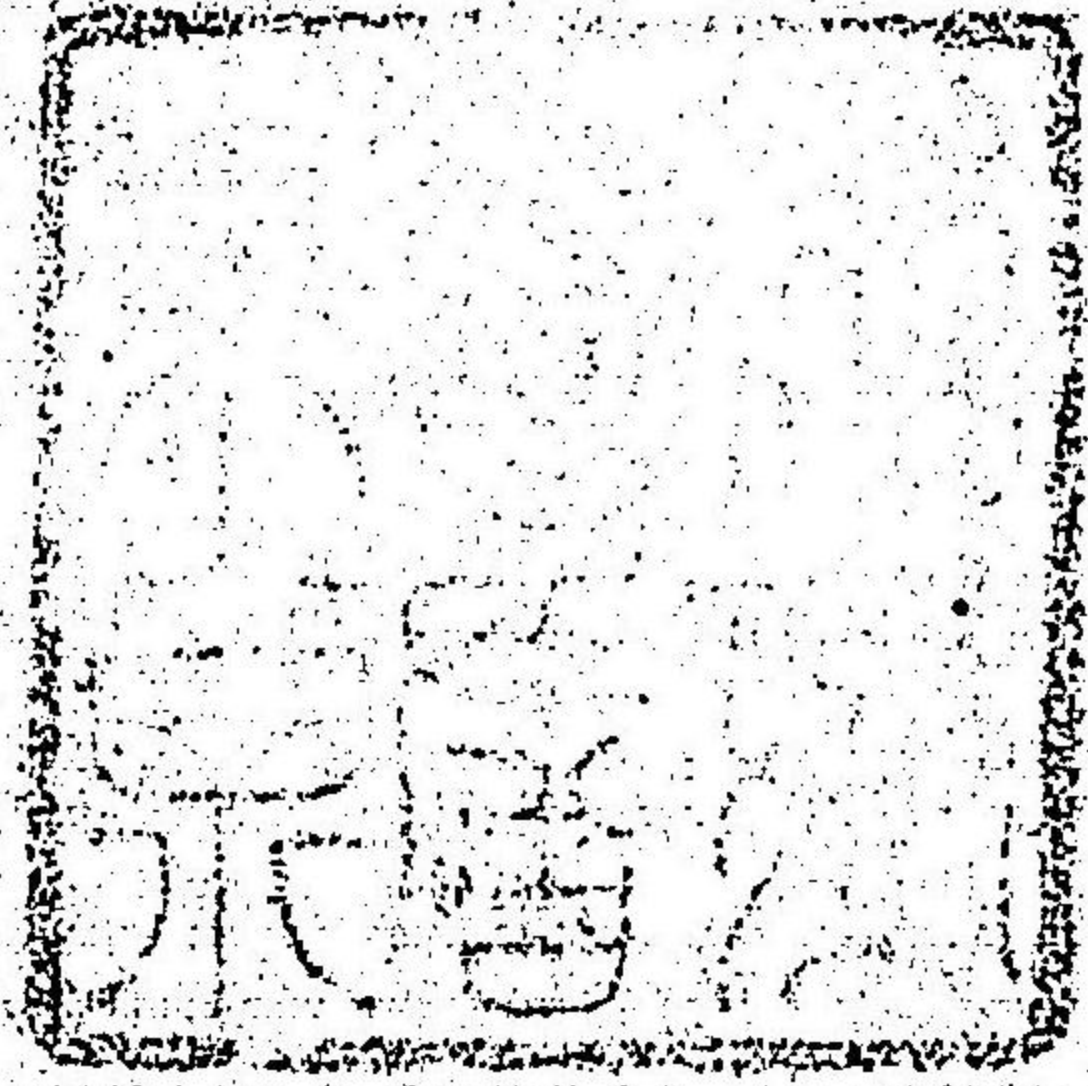
寺田 彦太郎 / 著

M30

ABB-0629







自序

論者曰はく「我が國國教無し 國として教法無かるべからず 宜しく撰擇して國教を定むべし」と 嗚呼



是れ備はざるの甚しきに非ずや 何となれば國初天孫降臨せさせたまひし時既に君臣の義明らかにし三種の神寶を授けたまひ又 天照大御神の大詔を以て訓令を降したまふ事ども古史に昭々たればなり而して神寶は歴代の 天皇齋き奉らせたまふ所にて 又訓令の大詔は取りも直さず 國教の基礎たり 故に曰はく「神代は正直を以て教へと爲す」 又曰はく「須神習」と又歴代の學者曰はく「我が神の道は誠





なり」と又曰はく「我が國の道は忠孝を以て教へと爲す」と皆天祖の大詔りの教義に非ざる無し。是れ國教に非ずして何ぞ。但だ詳細なる註釋を加へざるのみ然れども教化の行はるゝ事萬國に比類無きは言ふを俟たざるなり。言はましくも畏かれど萬世一系寶祚の隆なる事千万年の今に至りて益々著しく又國人風俗の美なる事は既に各國人も認知する所なり。其の之を他教の千万言を盡して教理は人意に繪炙すれども教化の事實に行はれずして後世益々倫常潰乱する者に比すれば其良否如何にぞや。實に同日の論に非ざるなり。

然るに水に捷む魚の却て水を知らざる諺の如く我が國人にして「我が國教へ無し」と言ふが如き者在るに至りては慨嘆に堪へざるなり。余輩賤劣を顧みず古史を穿鑿して高妙なる教意の在る所を探究せんとす。然れども余輩淺學不才の企て及ぶ所に非ず。故に余は余が信する所を述べて識者の參考に供せんと欲す。僭越の罪遁るべからずと雖も讀者幸ひに諒せよ。



我が帝國上古より萬國に卓絶たる固有の教へ有り之を古史に徴して  
辨明せんに

寺田彦太郎著

日本書記に曰はく

千時天祖天照大御神高産靈尊乃相語曰夫葦原瑞穗國者吾子孫可王之  
地皇孫統而治焉

謹みて案ずるに「可王之地」ハ句中理由の二字を含みたる意に讀み奉  
るべし

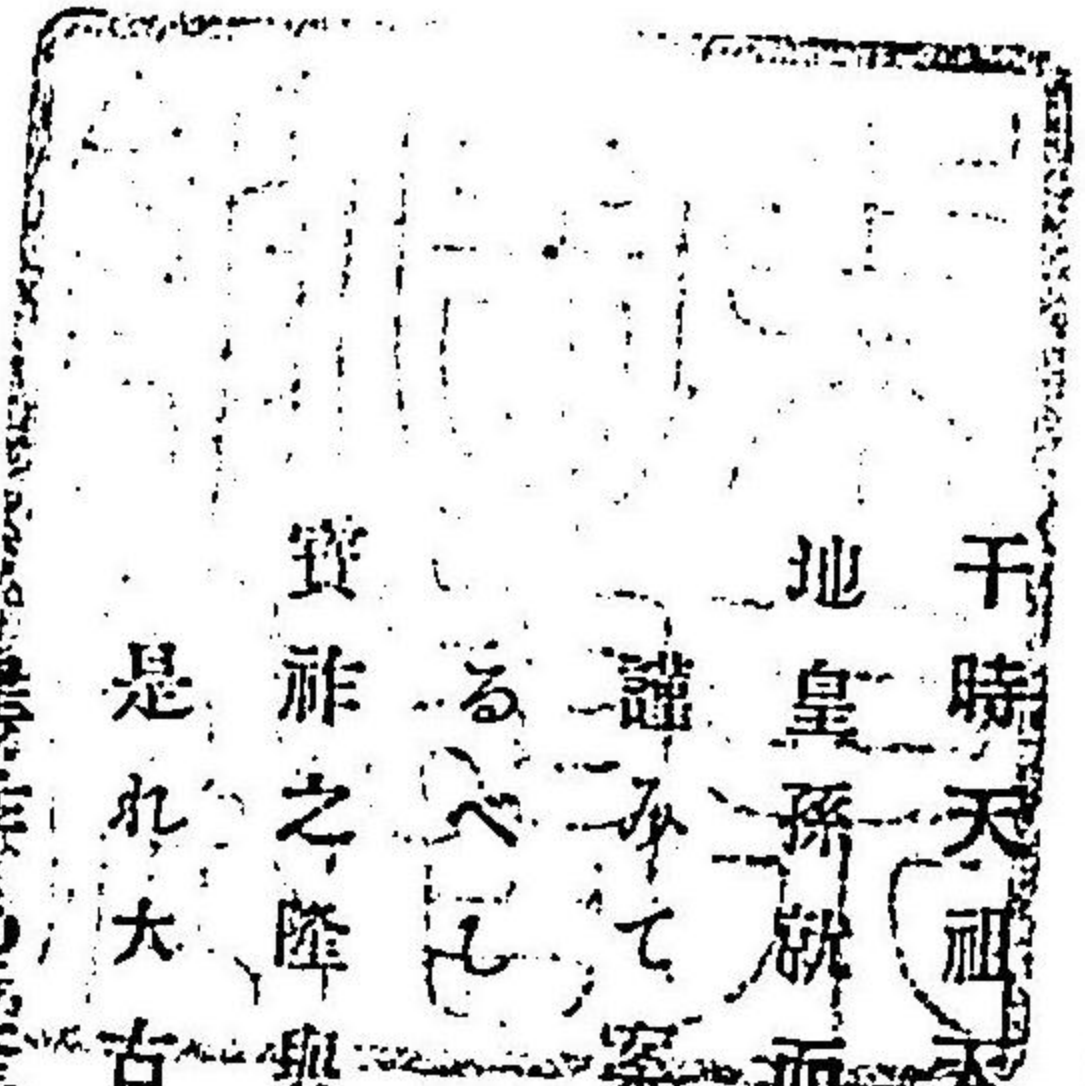
寶祚之隆與天壤無窮矣

是れ太古の大詔りにして千萬年の今に至りて益顯著にして  
皇祚の隆盛なるを仰き視奉る事最も長く最も尊き極みにこそ

天祖手持寶鏡授之即詔曰吾兒視此寶鏡當猶視吾

謹で案ずるに孝道を諭したまふの詔りにして皇御孫の尊は  
大御神の寶鏡の如くなる

大御意を受繼がせたまふの謂ならんか(備書に曰く「能く其志を」)





可與同殿共牀以爲齋鏡

忠の道を諒したまふなり

皇御孫尊の

大御神と御同様に大坐しまして君臨したまふ

亦齋の鏡は臣として君に事ふる者は正直にして潔白なる事鏡の如くなるべし 是れ忠の至りなり

夫れ鏡の質たるや本體明らかにして渝る事無く物を寫して蔽ふ事無く狂ぐる事無し

其の渝る事無きは即ち正なり 其狂ぐる事無きは即ち直なり 故に正直の教へは即ち鏡より出でたる義なり 又鏡は明らかにして能く物を容るゝは即ち仁君の風なり

又鏡は己を明らかにして直きを以て人に待つ 是れ人道なり

古言に曰はく「須神習」

是れ神を敬して私心を抑へるの謂なり 神前に鏡を建て置くは即ち是が爲なるべし

教化の要點の畢意私心を抑ふるに在り

天祖の御教へは三種の神寶と一の大詔りを傳へさせ玉ふのみ而して大古書契未だあらず詳細なる御傳へなし漢として旨趣を窺ひ奉る可き由もなし故に神代以降邦家に布及したる事跡事實に就て稽れば君臣の義父子の道忠孝正直の教へ等整然として備はれり之を遡て神寶及び大詔りに徴し奉れば釋然たるものあり茲に於て負氣なくも解釋を附し奉りて而して亦儒佛耶の法教に徴すれば益々卓然として我御教の玄妙なるを覺ゆ

情々教法の旨趣を稽ふるに教化の要點は私心を制抑するにあり佛耶の教旨千句萬言なるも歸する所は私心を制抑するにあり而して皆私心を排除する事は到底爲し得可らずとして終に人性惡れりと言ふに至れり然るに

天祖の御教へは私心を抑へて一種特別なる我國人の大和魂なるものを發生するに至れり(大和魂は孟子の所謂浩然の氣なり)御教への玄妙何れに在るやと之を探究するに御教への結果として自ら教則



の三綱領を作為して教化の端緒となり居れり

四

一敬神 私心を去る可し

一忠孝 身を脩む

一正直 世務を行ふ

私心を去り身を脩め正直を行ふ夫れ人身の潔白豈之に加ふるもの  
有る可けんや宜なるかな浩然の氣即ち大和魂の發生する事  
天祖の御教へは人世社會を組織して教法の本源を立て玉ひたるも  
のなり故に儒と言ひ佛と言ひ耶蘇と言ひ皆天祖の御教への範圍内  
に非ざるのなし其理由を列舉せん  
夫れ儒にして尊む所の者は浩然の氣なり孟軻曰我能く吾浩然の氣  
を養ふ其氣たるや至大至剛直きを以て養て害する事無き時天地  
の間に塞がる」と又曰「義と道とに配して是れ倭ゆる事無し」と  
之れを案するに浩然の氣は天授なり故に口に言ひ難きなり但し心  
公正なる時發生す而して日用常事爲す事皆直き時の益々至大至剛  
にして天地の間に塞がると謂へる意なり忠孝の即義と道となり之

れに配して倭ゆる事なきなり」

天祖寶鏡の御教への正しくして直し孝にして

忠あり故に我國人の皆々浩然の氣有り征清戦争に將校以下士卒に  
至るまで皆忠實勇武なるは其証據なり 但し言はずして行はれ教  
へずして人々道に適ふ故に是れを不言の教へと言ふ可きなり

論語に孔子曰はく「我言ふ無からんと欲す」と

子貢曰はく「子言はずんば二三子何をか述べん」と

孔子曰はく「天何をか言ふや 四時行はれ百物育す 天何をか言  
ふや」と有り 是れ孔子不言の教へを希望すれども行ふ事能はざる  
を嘆じたるならん 然れども 世に不言の教への有るべき理由を  
悟りたるは孔子の孔子たる所以なり 蓋し不言の教へたるや我が  
天祖の御教への外宇内に絶えて無き所の教へなり

又大學の脩身齊家治國平天下の章に曰はく「天子より庶人に至る  
まで一に身を脩むるを以て本とす」とは孔子の格言なり人々貴賤賢  
愚の別無く各々其身分に應じて世に立つは身を脩むるを以て始め

五







偽を用ふるの必要あらんや故に意誠にして心正しく身脩まるなり  
 又仕官せんと欲する者は仕官は治者の部類なり 己を正しうし  
 て人を治むるば其本分なり 此の本分に身を安んずるを「物格る」と  
 言ふなり 心爰に止まるを以て安然なり 故に爲すべき職務は自  
 ら知れるなり 是を「知る事至る」と言ふ 何を苦しんでか邪欲を爲  
 さん 故に意誠にして心自ら正しく身脩まるあり 故に孔子は賢  
 者も不肖者も貴賤の差別なく皆身を脩むるを以て本とすと云へり  
 是れ只だ我が

天祖御教への正直の一部分のみ 而して其の結果は「物格り知る事  
 至りて身脩まる」なり 是を以て御教への廣大にして萬有の理を備  
 へ簡易にして學び易く言語寡にして人事の多端に應用して猶ほ餘  
 り有るを悟るべし又人性善惡論の如きは儒家今に於て決定の論有  
 るを聞かず 元來孔子の道は性の善惡を論するの必要なし 孟軻  
 の時に至り道の誤謬出で來りて性の善惡論の如きも必要を感せし  
 ならん我が寶鏡の御教へに於ては素より性を論するの必要無しと

雖も前既に辨じたるが如く苟も大和魂なる者は皆性善なること論  
 を俟たざるなり 萬人は萬人皆教へずして大和魂なるものなり  
 命を捨つべき時は泰然として死す 其の間毫も欲望有る事無し  
 是れ性善なるの証なり 性惡夫れ焉んか在る 佛道も亦我御教へ  
 の範圍内に有るの一例を擧げん佛説に曰はく「菩薩清冷の月畢竟  
 空に遊ぶ衆生心水清ければ菩提の影中に現す」と有り 是も孟軻の  
 浩然の氣と等しく天授なり 故に心水清きの一輪大困難にして衆  
 生をして爰に至らしむる事能はざるは孔子の不言の教へを希望し  
 て得る事能はざると同じきなり 我が  
 天祖の御教へは心水をして清からしむるの妙有り 故に不言にし  
 て萬人共の道を得るなり 然れば則ち教法に於ても亦萬國に冠絶  
 せりと言はざるを得ざるなり

耶蘇教は歐米各國該教を以て國人を治む  
 而して其の國々彼の如く盛んなり 善教なる事論無し 我が  
 天祖の御教への範圍の外に非ざるなり唯だ遺憾なるは我が國人に



して該教を信する者我が  
 天祖の御教への字内に卓絶なるを知らずして偏に外教を妄信して  
 弊害を生ずる是なり 然れども憂ふるに足らざるなり 何となれ  
 ば該教も漸次研究進歩して既に「ユニテリアン」の如き教派起れり  
 今一轉せば我が  
 天祖の御教へを尊信する事期して疑はざるなり 人或は謂はん  
 天祖寶鏡の御教への高妙あるは之を知る  
 然れども我が國の文物技藝皆他國より輸入せざるもの無し 文學  
 は支那より輸入し文字も亦之れを彼れに取れり 其の後佛法を容  
 れて之を潤飾す 又輒近歐州の政治及び文學技術を取りて以て始  
 めて諸般事物悉く具足したるに非すや」と 余之に答へて曰はく  
 「然り 實に然るなり 然れども 之を以て我が御教への光明を滅  
 殺するに足らざるなり 何となれば社會は複雜なる者なり 故に  
 歸一するを貴ぶなり 社會は乱雜なり 故に統一するを貴ぶなり  
 國家も 亦然り 國家は君を最大尊しとなす所以のものは他に非

ず億兆の人民を統一するを以てなり 我が御教への貴き所以は諸  
 教の源流を極めて之を統一するの力あるを以てなり 尙は譬へを  
 取りて其微妙なる濼遠の意を明らかにすべし  
 抑も宇宙間萬物の中「人類と禽獸と何れか貴し」と言ふまでも  
 なく人は萬物の靈にして貴し「禽獸と等し並みに論すべき者に非  
 ず」と誠に然るなり 然るに生れ出でたる時「人と禽獸とは孰れが智  
 有あり」と言はゞ人程生まれ出でたる時智の無き者は非ざるなり  
 人は生れ出でたる時只だ「ウギヤ」と言ふ事を知りたるのみ 其の  
 他乳房を其の口に含むれば舌を以て吸ふ事を知れるに過ぎず 之  
 に反して獸類は生れ出づるや否先づ乳房の在る所を知り之を採り  
 得て已と自ら之を呑む 又雞の如きは卵の破るゝや否直ちに驅け  
 歩き小米を拾ふ 蓋し野鳥は智甚し 親鳥の餌を與ふるに非ざれ  
 ば喰する事を知らざるなり 而して成長の後は何にぞと言ふに  
 野鳥は銳敏にして雞は遲鈍なり 蓋し故あるなり 夫れ禽獸は天授  
 を得て 生智なり 然れども學んで智識を増進するの原素無し



故に之を賤しとす 人は之に異なり 生れ出たる時智無しと雖も  
 學ぶ時は限り無き智識を得るの機能を天授せられたる者なり 故  
 に人は博く學んで之を自得するを以て人の人たる貴き所以なりと  
 す 故に人は學ばざるを賤しと爲す 我が日本國人は各國の文學  
 及び教法等總て學んで之を自得するに鋭敏なる機能を有せり 是  
 れ我が國人の名譽として誇るべき所なり  
 其の鋭敏なる所以の者は何ぞや 曰はく「心水清くして人欲に蔽れ  
 ざるが故に靈明なる良心發達すればなり 是に因て之を見れば  
 天祖寶鏡の御教へ無上の尊き事を推知するに足るべきなり  
 曇りな敷大和心のもど問はは

神の御前の鏡なりけり

附言

人道の徳義たるや人と相平平に樂しむの道なり大にしては國家安寧に  
 して隆盛ならしむ小にしては一家和睦して繁榮を期す可く一身にし  
 ては行ふ事障得なく爲して遂げざる事なし徳義の効用夫れ斯の如く

廣大なり人として誰れか之れを企圖せざるもの有る可んや是れ則人  
 の本性なればなり然り而して徳義を行ふの主幹幹なるものは人々個々  
 に存する所の心意なり心意有つて己が行爲を指揮する事言を俟ざる  
 なり偕斯の心意なるもの世に有りど有ゆる千姿萬態森羅萬象に應揚  
 して究止する所なく亦他より牽制せらるゝ事なく己が隨意なるもの  
 なり故に標準なく我意に募り終に苦しみに陥りて後悔するあり或は  
 苦んで猶回顧する事能はず益々苦んで遂に人を慘害して己れも亦亡  
 滅するあり其混乱迷誤種々雑多なる事勝けて言ふ可らず哲人之れを  
 憂へて是れが標準を示し之れを導ひて人々其本性を誤らざらしめん  
 と欲して其經驗する所の標準を示して後人を導んとす孔子釋迦耶蘇  
 の如きは即ち其人なり孔子は複雑なる世上の行爲を仁義禮智信の五  
 部門に分ちて之れが研究をなし是を標準として人たる者の本性を誤  
 らざらしめんとす釋迦は人の心意は物に應揚して止る所をえらす自  
 ら苦んで免る能はざる心意の根底を研究分析して是れが煩惱たる事  
 を悟りて其本性に復らしめんとす耶蘇は社會の複雑なる事容易に研



究す可らざるを以て之れが創造者たる上帝を敬し是れが意を迎へて標準として擾乱せる人心を収攬して本性を全からしめんとす各其出處異なるによりて旨趣少しく異なる如しと雖も人性の本旨を全からしめんと欲するに至ては歸する所則ち一なり孔子は周室衰へ諸侯蜂起し君臣の道を失ひ従つて五倫乱れて萬民塗炭に苦しむ故に五常を以標準として行爲を正すを以適當なりとす而して理論偏頗なきを以常時の教へと爲すに足れり

釋迦の婆羅門教の理論擾乱の時に際したるを以人身心意の情實根底を穿鑿して一派の教へを立てたり耶穌は人世擾亂して蒐集す可らざる時に際したるを以上帝を敬し萬物創造の原理を推して統一の標準と爲したるは適當なる教へなりと云ふ可し我國

天照大御神の御教へは前三者と大に異なるものあり三者は人世の亂たるものを救済したる教へなるを以一方に偏するの嫌ひ無き能はざるものあり

大御神は人世未だ亂れざる前に在て國家を統治するの道は斯く有る

可しといふ人世社會を統御するの大典を教示し玉ひしなり即ち父子の道君臣の義是れなり蓋し大御神手に寶鏡を持之を授けて此寶鏡を視る事吾を視るが如くせよと詔り玉ひしは父子の道なり亦五伴の神を副へて中津國を知ろしめせと詔り玉ひしは君臣の義なり又殿を同うし床を與にして齋きの鏡と爲せと詔り玉ひしは忠孝の道を教へ玉へるなり(國體論及び鏡の説明を参照す可し)夫れ父子の道は國家の本なり何となれば父子有て家を爲し家有つて國を爲せばなり亦君臣の義は政事の根元なり君臣有つて始て國政行はるればなり故に共和國と雖も大統領無ては國政行れざるなり即ち國家は父子の道と君臣の義を以て組織したるなり而して之れを整理するの道を號けて忠孝と云ふ此忠孝の道をして萬事に應用して脈絡貫通せしむるの要素なるものゝ正直の二字なり蓋し本を變せざる之れを正と言ふ物に應じて偽らざる曲げざる之れを直と言ふなり故に忠孝正直は人世の大道にして亦教法の大本なり故に宇内各國の教法即ち儒佛耶の三教法は我大御神の御教への範圍内に在るものなり其證據の二三を掲ぐ可し孔



子言に曰く吾道一以て之れを貫く曾參解釋して曰夫子の道は忠恕而已と夫れ然り只忠の一のみ之れに加ふるに恕をして酌量するなり又曰孝は百行の本なりと言へり深く穿鑿すれば百行皆孝の範囲内なる事を推して知る可し耶蘇教も又然り其十戒に曰く汝の父母を孝敬せよ吉祥汝が身に及んで壽きを世に伸むといへり蓋し耶蘇教は如何なる善行と雖も其報酬として現世に神の恩寵を蒙るとは言はざるなり只身後の靈魂神に近付恩寵を蒙るといふに過ぎざるなり然るに孝の一事に於ては現世現身に神の恩寵を蒙るといへるは孝を以最大善行となしたる事又推して知る可し但し此孝の中に忠をも含めりと云ふ佛道も又然るなり佛語に菩薩清冷の月畢竟空に遊ぶ衆生心水清ければ菩提の影中に現すと云へり我國の御教へも罪穢れを拂ひ清めて清淨潔白を尊むは我國神代よりの御教へにして鏡の蘊奥より出でたるなり以上述るが如くなるを以視れば諸道は皆大神の御教の註解なりと云ふも不可なかる可し否御教の分子なりと言ふ可し是れ畢竟我天照大御神の御教へは大古人世社會創造者の玄妙即造化の功用を以

て社會を造立するの際其玄妙に相伴ふの御教へなるを以て説明を要せずして人皆心正しく又教へずして身修まりし事上代の歴史に昭々たり加之智勇兼備なる事は神功皇后三韓征伐を以も徵するに足れり實に不言の教へなり然して其本源は三種の神寶と一の御大詔り有るのみ而して斯の不可思議なる教化世に行はる其玄妙なる端緒如何なるものなるやは探究す可き緊要なる大問題なり余は信ず我御教への敬神忠孝正直の三綱領なりとす一日神を敬する時は心正し二曰忠孝を思ふ時は身脩まる三曰正直を以事に應ずる時は行ふ所障得なし是即ち不言にして教化行はるゝ所以なりと信するなり人或は言ん我御教へは至れり盡せり完全なるものと言ふ可し然らば則ち諸宗教は不必要なるか答へて言はん然らず

大御神の御教へは人世社會終始常經の御教へなるを以萬事に應用して餘蘊なしと雖も人世は複雑にして進歩限りなく變遷極りなし故に一治一亂は數の免れざる所たり而して諸教は元來擾亂を矯正するに基因するを以亂雜變態せる時に際して之れを矯正するの効力有るも



のど信す故に  
大神の御教へを詳細説明して國教の幹とし諸教を枝葉となし教化自  
由に普及せしめむ事を希望するなり穴賢

明治三十年四月六日印刷

明治三十年四月<sup>十五日</sup>發行

著者兼  
發行者

寺田彦太郎

静岡県遠江國磐田郡  
福島村福田四百八十七番地

印刷者

中田忠篤

芝區新櫻田町十四番地